

## E-3 社会との共創による新たな若手研究者支援モデルの検討



ようこそ - Welcome - Willkommen



京都大学は、若手研究者の育成や研究の国際化推進といった志を同じくする様々な組織、例えば出版社などの民間企業や民間の助成財団、地域の財界団体や文化機関等との交流を深め、連携して学術研究を支える活動を進めてきた（[間:AI DA]事業）。これら学外のパートナーとの連携は、URA自身の研究力分析の向上や研究支援活動の多角化をもたらすことで大学の研究力強化に貢献し、パートナー組織にとっても学術研究へのアクセス向上や産官学連携の推進などに役立ててもらえるであろう。

本セッションでは、京都大学が学外パートナーとのあいだで深めてきたゆるやかな連携、そして広島大学が地方自治体と連携して地域の課題解決のための研究のマッチングや地域産業に資する共同研究を進めてきた取組を紹介する。研究の国際化や若手研究者の活躍、政策課題の解決、といった共通課題に対する大学と社会との共創の事例を検討することで、参加者を交えたディスカッションを深めたい。

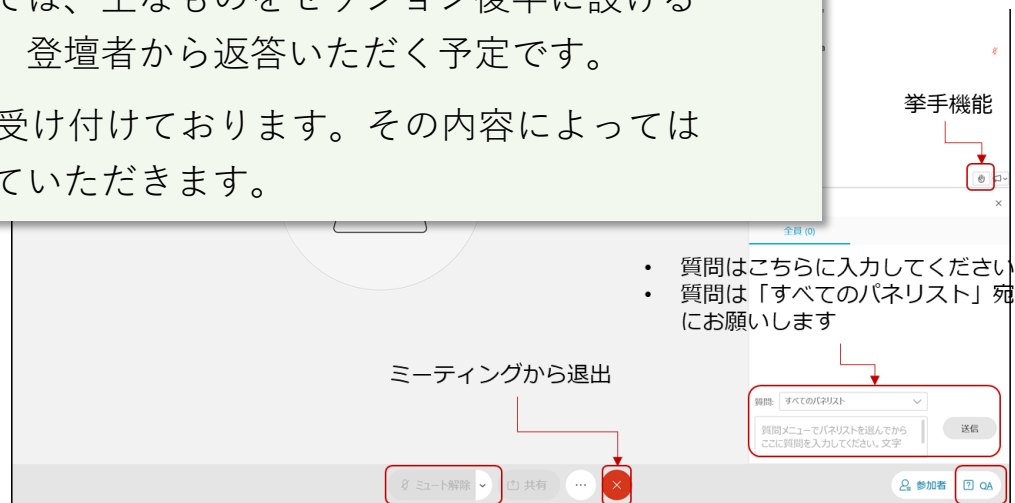
Organized by KURA's  members & partners

[間: AI DA (Ambitious Intelligence · Dynamic Acceleration)] は、京都大学学術研究支援室 (KURA) が国際的なファンディング機関等と協働して開発し運営する研究の国際化を推進するプログラムの総称で、志の高い若手研究者(ECR)のキャリアアップを後押しすることを目指すものです。

## E-3 社会との共創による新たな若手研究者支援モデルの検討

### セッション運営にあたってのお願い

- 登壇者以外の全ての参加者はマイク・カメラ操作はできません。
- 時間の都合上、登壇者による発表中や直後には質疑応答を行いませんのでどうか御了承ください。
- 発表中のご質問や関心事項は「Q&A」へ書き込んでください。その際の宛先は「すべてのパネリスト」宛にお願いします。
- ご質問・関心事項につきましては、主なものをセッション後半に設けるディスカッションで取り上げ、登壇者から返答いただく予定です。
- 「Q&A」への書き込みは随時受け付けております。その内容によっては事後にメール等にて対応させていただきます。



マイク・カメラ操作はできません

質問はQ&Aパネルで行います

## RA協議会第5回年次大会（2019年9月・調布市）セッションからの展開

### 「G2 海外ファンド機関とのパートナーシップによる若手研究者の国際化支援」

- ドイツ学術交流会(DAAD) 若手研究者の国際的なネットワーク構築を支援する、京都大学とのマッチングファンド事例
- 山岡記念財団、中谷医工計測技術振興財団：若手研究者への助成を行う民間財団の理念・活動を報告
- SPRINGER NATURE：国際的な出版社による、若手研究者の発信力強化と人材育成について報告

#### Organizer



園部太郎、鈴木環、桑田治、仲野安紗  
(京都大学 学術研究支援室)



Dorothea Mahnke  
(DAAD Tokyo Office)



西岡 千文  
(京都大学 附属図書館)  
AIDA 派遣研究者



Jeffrey Robens | 宮崎 亜矢子  
(Springer Nature)



小川 研之  
(中谷医工計測技術振興財団)



雪野 弘泰  
(山岡記念財団)

### メディアの反響

#### 若手研究者の国際キャリア支援で活躍、京大の支援の仕組み

日独の文化交流を手がける山岡記念財団は活動が東京に偏っていたが、ネットワークを京都に広げられたという。KURAは文系の研究者支援も重視するだけに、学術・文化の幅広い交流を歓迎する。鈴木環URAは「社会とつながる意識は、研究資金獲得時にも求められるもので、若手研究者を刺激するよい機会になる」としている。

KURAは全国の大学のURAや担当部局にとってリーダー的存在だ。地方大学でも地元の企業財団などとの連携が可能とみられ、この活動が参考になる。また学部生などの留学・奨学金を扱う教育部局と、若手をはじめ研究者を対象とする研究部局で、今後は緊密な連携が求められるきそうだ。

日刊工業新聞社 ニュースイッチ記事を抜粋 <https://newswitch.jp/p/21565> (2020/3/23)

#### 山本佳世子

科学技術部 論説委員兼編集委員

科学技術系の企業財団は、母体となる企業の産業分野によって、支援する研究分野が決まっているケースが多い。そのためか大学人に、あまり広くは知られていないと思う。研究助成だけでなく、海外派遣の助成・交流支援を行っているところが、それなりにあると私も今回の取材で気づいた状況だ。こういった情報をだれが、研究者に届けてくれるのか、と考えると、研究支援のURAの活躍の期待が広がりそうだ。



## 若手研究者支援に関する政府の施策動向

### 内閣府 「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」 (2020年1月)

#### 「社会全体から求められる研究者等を生み出す好循環の実現」

- 若手の研究環境の抜本的強化
- 新たな観点での研究力評価
- PIになるための資質向上

研究者のキャリアステージのイメージ				検討用資料
博士前期課程 (修士)	博士後期課程	若手任期付研究者 (ポスト・特任助教等)	中堅・シニア研究者	
20歳～	25歳～	30歳～	40歳～	50歳～
<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的思考法 (フロンティア的知識解決) 等の基礎知識をコースワークの履修を通じて身につける</li> <li>高度な専門的知識と自らを身に付けさせるために実験等の実践的な研究を博士課程学生が多数必要とする組織的支援の</li> <li>研究に専念できる環境と就業活動を開始 (大学と経済界) による就職活動ルールの設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>とロジックに基づく課題解決的経験と専門知識の応用力を高める</li> <li>体系的なスキルを身につける</li> <li>ダブルキャリアの経験を通じて、研究力向上とキャリアの両立を目指す</li> <li>経済的支援を確保し、研究に専念できる環境を整える</li> <li>研究 (R・T) だけでなく、教育能力の向上と指導力向上を目指す</li> <li>経済的支援を確保し、研究に専念できる環境を整える</li> <li>研究 (R・T) だけでなく、教育能力の向上と指導力向上を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長年 (5年以上) の任期付ポスト、特任助教、特任助教授) を経験し、研究計画立案、研究指導等のPIに必要となる経験と専門知識を身につける</li> <li>研究 (R・T) だけでなく、教育能力の向上と指導力向上を目指す</li> <li>経済的支援を確保し、研究に専念できる環境を整える</li> <li>研究 (R・T) だけでなく、教育能力の向上と指導力向上を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>独立した主任研究者 (PI) として挑戦的、創造的研究を牽引</li> <li>スタートアップに必要な研究運営資金・人員・指導者を得る</li> <li>デュアルキャリアにより、競争的な進捗を経て、公正な業績評価の下でデュアルを推進</li> <li>デュアルトラックポスト制に適合可能なデュアルポスト制が</li> <li>競争的資金の獲得等の業績に応じ与・待遇</li> <li>研究費は主に競争的資金から構成され、研究遂行に必要な経費は所属機関から支出</li> <li>優れた研究に対する継続的支援</li> <li>外部資金の獲得等の業績に応じ与・待遇</li> </ul>	
25歳～	30歳～	30歳～	40歳～	50歳～

### 経済産業省 「研究力強化・若手研究者支援施策」 (2020年7月)

- 官民協調による有望な若手研究者のシーズ研究の発掘

## 民間の独自性を活かした若手研究者支援・人材育成

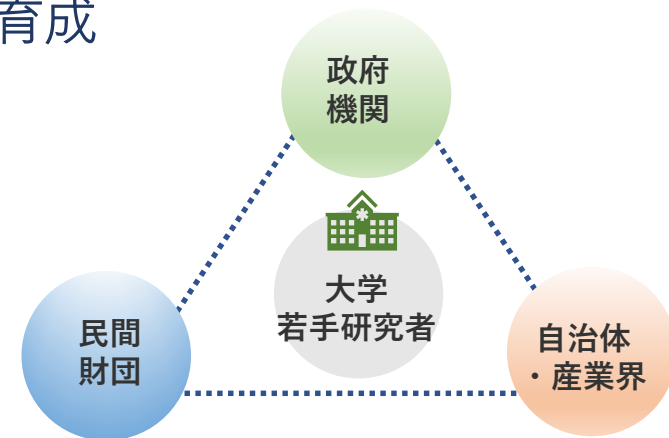
### 若手研究者の知見を活用した社会課題解決

- 調査研究費が得られにくい段階、萌芽的な段階も対象

### 自治体と大学の連携

### 地域の産業ニーズと大学の研究シーズの共有

- 地域の課題解決にむけた独自の調査研究支援



### 展望

URAが「共通の志」をもつ社会の様々な機関と連携し、研究の知見を活用したい「若手研究者」とそれを必要とする「社会」との共創を促す  
 → 研究力強化への新たなドライビング・フォースとなり得るか？

## 本セッションの流れ

実行委員より進行案内と趣旨説明とセッション担当者より講師紹介

年次大会実行委員：鈴木 環（京都大学 学術研究支援室 主任URA）

セッション担当者：桑田 治（同上）



## 京都大学の事例紹介

**民間助成財団・文化交流機関・学術出版社との共創による若手研究者支援**

園部太郎（京都大学 学術研究支援室 主任URA）

アーロン・ヴィットフェルト（同上）

雪野 弘泰（山岡記念財団 常務理事）



## 広島大学の事例紹介

**地方自治体との連携による政策課題解決と地域産業振興**

石原悠一郎（広島大学 東広島市政策課題共同研究部門 助教）



## 質疑応答とディスカッション

モデレーター：仲野 安紗（京都大学 学術研究支援室 主任URA）

コメンテーター：渡辺 元（助成財団センター 理事）

宮崎亜矢子（シュプリング・ネイチャー）



## 総括

\*セッション終了後しばらくのあいだ登壇者とお互いの「顔が見える」形での質疑応答とネットワーキングの時間を設けます。ご希望者はそのまま会議室内にお残りください。